お祖師さまの教えを正しく受け継がれた先師先聖物語 第10回

岡山県下の道のほとりには、今でもいろんな所に「南無妙法蓮華経」「南無日蓮大菩薩」「南無大覚大僧正」と書かれた石碑（文字が刻まれ建てられている石）が沢山あるんだ。これは大覚大僧正が、この備前国（岡山県）に熱心に御題目のご信心を弘められたからなんだ。今回は、その備前国（岡山県）でのご弘通ご奉公のお話とお亡くなりになられた処のお話だよ。

大覚大僧正②

備前国（岡山県）に最初に御題目のご信心を布教したのは大覚大僧正なんだ。元弘三年（一三三三）、大覚大僧正は備前国に御題目を弘めようと、道行く人々に御題目のご信心の有難いことを説かれたんだ。すると次第に備前国の街中に御題目のご信者が増えていったんだ。

しかし、備前国に御題目のご信者が増えていくことに腹を立てたのが、この地方に古くからある福輪寺（真言宗）というお寺の良遊という住職。この良遊という住職、突然、大覚大僧正に「どちらの教えが正しのか勝負だ」と法論（互いに意見を述べ、どちらが勝れているのか争う）を仕掛けてきたんだ。

だけど法論が進むにつれてこの良遊という住職、御題目のご信心の有難いことに気づくんだ。そして、何のためらいもなくお寺ごと御題目のご信心に改宗することを約束されたんだね。

これを聞いて驚いたのがこの地方を治めていた大名の松田元喬公。これが本当の話かどうかを確かめるため、二人をお城に呼びつけ再び法論をさせたんだ。

すると、この法論を聞いていた松田公も心の底から御題目のご信心の有難いことが判り、御題目のみ教えと大覚大僧正に絶大なる帰依（仏や僧を信じてその力にすがること）を誓われたんだ。

大名の松田家一族の人々をはじめ、領地の人々にも御題目のご信心が弘まり、備前国の各地にご信者が増えていったんだ。大覚大僧正は、この松田公の援助を受けて御題目のご信心を弘め、およそ十年間の間で備前国に二十数ヵ寺以上のお寺を建てたんだよ。

岡山市津倉町妙林寺参道口に建つ題目石
（題目石のある所を「法界様」といい、今でも始終お花が供えられている）

松田元喬公を前に法論する大覚大僧正と良遊

大覚大僧正のお墓

大覚大僧正は、貞治三年（一三六四）四月三日、六十八歳でご生涯を終えられたのだけれど、どこで亡くなられたのかハッキリ分からないんだ。京都市伏見区にある宝塔寺にお墓があるといわれているけれど、確かなことは分かっていないんだ。

昔から言い伝えられていることだけど、大阪府富田林市の龍泉寺というお寺の境内地にお墓があるんだ。このお墓は言い伝えによると、貞治元年（年号が三年ではないが）四月三日、後醍醐天皇の皇子がこの地で亡くなったのでお墓を建てたと伝えられているんだ。

これもハッキリしないが大覚大僧正は、後醍醐天皇の三番目の皇子とも言われていたんだ。そこで、この龍泉寺にあるお墓は大覚大僧正のものではないか、ともいわれているんだよ。

百年後、大覚大僧正のご奉公の跡を巡られていた門祖日隆聖人は、このことを聞かれてこの地（お墓）を訪ねたというから何かしら不思議なご縁を感じるね。

大覚大僧正　碑　　岡山市内には題目石や石碑が多いことから、御題目のご信心が盛んであったことが分かる。（岡山市津倉町妙林寺参道口）

後醍醐天皇の皇子の墓と伝えられているところ
（大阪府富田林市の龍泉寺境内）